



西条



2024-2025 年度国際平和ポスターコンテスト展覧会

テーマ ～ 限らない平和 ～

子ども一人ひとりを通じて、世界に平和をもたらそう

開催期間：2024年11月14日(木)～11月28日(木)

会場：西条市立西条図書館1階ロビー

2024-2025

No. 12
570 月号

国際会長テーマ
メッセージ
336-A地区スローガン
ガバナースローガン
キーワード
会長スローガン
キーワード

「 WE SERVE 」
「 足跡をしるす 」
「 地球を守る、人を護る 」
「 自信と誇りをもってウィサーブ 」
「 躍進 」
「 未来に向けて、新たな気持ちで We Serve 」
「 安心 」





献血奉仕 ～ 献血は“いのちのリレー”です。あなたの行動が誰かの役にたっています～

2024.11.13(水)10:00～16:00 於～愛媛県立西条高等学校 アクティビティー

青少年指導委員会委員 黒石広文

西条高校文化祭に合わせ、献血を実施いたしました。

献血の必要性、重要性を若年層である生徒さんへ啓発活動を行うことで、献血推進に対する機運が高まること、また薬物乱用防止教育啓蒙活動も合わせて行うこともあり、今回の献血は「青少年指導委員会」が主体となり実施するアクティビティーとなりました。

私が、西条高校構内に入ったのは20年ぶりくらいでしたが、献血車両の周辺は私が高校生の頃とあまり変わってなく、少し高校時代のことを思い出しました。

秋晴れの爽やかな天候の中、朝から多くの方に訪れていただき、午前中は献血に並ぶ人が途切れることなく、準備した御礼の品物が足りなくなると心配したほどでした。

献血をされた先生からは、「御礼の品物の中に入っている文具は、すぐに使えて嬉しい！」との声も聞かせていただき、また学生さんからは[好きなお菓子3個選んでね♪]コーナーの前で照れながらも「3個もいいんですか?！」と笑顔で話しかけていただいたりで楽しい時間を過ごさせていただきました。献血結果はご覧の通りです。

概ね目標献血者数に届き、安堵しました。

準備、お手伝いに参加されたライオンズメンバーの皆様、大変お疲れ様でした。

今後もこの事業が継続し、献血事業が若い人たちに広まることを願いながら私の報告とさせていただきます。

400ml 献血	29名
不採血	7名
献血受付	36名



次回の献血は…… 2025年3月6日(木)
於～フジグラン西条

第53回西条市青少年剣道錬成大会

2024.11.4(祝)於～西条市総合体育館

後援事業

小学生から中学生までの男女67名が、日頃の鍛錬の成果を思う存分発揮しました。

優勝

二位

小学生1・2年生個人

河谷瞬司(武徳殿)

富永 尚(飯岡)

小学生3・4年生個人

河谷唯菜(武徳殿)

富永 歩(飯岡)

小学生5・6年生個人

新居田昂希(氷見)

斎藤はな(飯岡)

中学生男子 個人

伊藤成杜(西条北)

高橋晃都(西条北)

中学生女子 個人

井下いろは(西条北)

小寺早恵(西条北)



松本敏秀

日 時 : 2024年11月23日(土)14:45~17:15

場 所 : 新居浜市レイグラツェふじ

参加者 : 新会員オリエンテーション

福田映子 L

リーダーシップ研究会

松本敏秀 L

336-A 地区2リジョンから62名が参加し、塩崎安規 2R-RC の開会宣言の下、全体会議を行った後、新会員オリエンテーション、リーダーシップ研究会それぞれに分かれて研修を受講しました。

リーダーシップ研究会では、講師7名と参加者17名が参加し、336-A 元地区ガバナー・地区名誉顧問/GMT・GLT コーディネータの真鍋 隆氏の講話やワークショップが行われました。

講話においては、真鍋コーディネータの経歴から始まり、ライオンズクラブの歴史・目的・道德綱領・権利と義務・ロバート議事規則などについて、経験談を踏まえながらの興味深い話を聞かせて頂きました。

ワークショップでは、4人程度の班に分かれ、“ライオンズにおけるリーダーシップ”をテーマにフリーディスカッションを行いました。意見の一例として、“引っ張っていく努力をすることも必要”というところから、“様々な意見をまとめるにもまずは相手の意見を聞くことから始まる”、“役職はメンバー協力があつてのもの、その立場にいる役職で偉いと錯覚してはいけない”、“全てに好かれようとしなくてもいいが嫌われないようにすることは大事”などなど。業種や年齢、組織規模が違ふところから集まったメンバーで構成されているライオンズクラブならではの多様な意見があり、一企業人の私にとっては少し耳の痛い話で改めて思いを巡らすところもあり、非常に有益な時間を過ごすことができました。

未筆ながら、ご多忙中、引率いただいた明比紳一郎L、ありがとうございました。



新会員オリエンテーション出席報告

福田映子

2リジョン新会員オリエンテーションを明比紳一郎Lに引率いただき受講してきました。

講師は東予ライオンズクラブ所属佐藤公平氏でした。私が以前、旧東予市にて飲食店を営んでいる時からお世話になっていたこともあり、親近感があつたのでお話が聴きやすかったです。

ライオンズクラブの思い出話を交えながら、クラブの歴史、LCIの事等教えていただきました。

昨年11月に入会したばかりの私には、少し難しいお話もありました。ライオンズ必携に詳しく記載してあるとのことでしたので、今まで開いたことはなかったのですが、また時間のある時に勉強してみようと思いました。質疑応答の際、何も質問できなかったのですが、帰りの車で明比Lに教えて頂きました。

貴重な経験をさせて頂き、本当にありがたく思いました。

これからも西条ライオンズクラブの会員として皆様のお役に立てるよう努めていこうと思います。

村上公明

西條の歴史探訪(明比学著)によれば

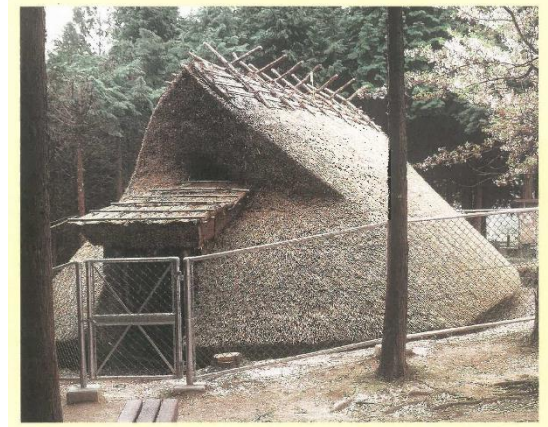
- ① 昭和46年(1971年)、福武八堂山遺跡が発掘調査された。住所址 3ヶ所、倉庫跡 1ヶ所、祭祀場と考えられるもの 1ヶ所等が発見された。弥生式土器片、石包丁、石鏃、石槍等多量の出土物があった。この遺跡の時期は弥生時代の中期末から後期中葉までと編年された。

約 1,700 年前である。同じく高地性弥生遺跡に属する常福寺裏山遺跡も確認されている。

これら弥生人が福武山麓に住むようになり、この辺には古代の太政官道も通っていたことであろう。「大町」という真の意味の古い集落はこの福武に発祥すると言えるだろう。

続いて「続日本紀」に「天平宝字 2 年 3 月壬午伊豫国神野郡人少初位上加茂直馬主等賜加茂伊豫朝臣」とある。

これは天平宝字 2 年(758)、孝謙天皇代に神野郡(新居郡の前身)の人「少初位上」の位の加茂直(かもあたい)馬主等が伊豫朝臣(あそん)の姓(かばね)を賜ったというのである。この加茂氏は福武に住みこの地方を統治していたものであろう。そして当時八堂山と伊曾乃台地から流れ出た水流は福武平野を後の御舟川の方に広がっていたのであろう。



八堂山遺跡 (弥生時代住居跡復元)

- ② 福武に加茂神社が鎮座する。拝殿の扁額に『賀茂神社由来記』が書かれている。伊曾乃神社社司今井太郎貞綱が明治41年に自ら撰文墨書したものである。この由来記に、「崇神天皇の朝大嶋積命始めて賀茂姓を賜ひ、田計角身命(たけつねのみこと・健角身命)に到りて、神野国造五百健命(かんののくにのみやつこいほたけるのみこと)に従って来たり当地に住みたるにより地名を賀茂郷と云へり。」とある。また「賀茂神社は当時は甚だ広大なものであった。」いわれのある古い地名が今もそのまま福武に残っていることがこの土地の古い歴史を物語っているのである。
- ③ 加茂神社は上記田計角身命(健角身命)の外に別雷命(わけいかづちのみこと)・玉依姫命(たまよりひめのみこと)の三神を祀った神社であるが、加茂郷の中心に福武村の氏神として祀られている古社である。
- ④ 伊予の豪族河野氏の系図では、河野玉澄(玉純)の孫真勝(実勝)は西條館(みやかた)となり、恐らく加茂郷の中心的存在である福武の山麓に居を構えていたものと思われるのである。次に中世の福武地方であるが、中世南北朝時代西條城が歴史の上に出てくる。この西條城が宮方(南朝側)と武家方(北朝側)との攻防争奪の地と化した。『忽那家文書』や『豫陽河野盛衰記』の「鳥生貞実軍忠状」等を見ればそれがよくわかる。西條庄は河野通盛(武家方)の所領であった関係上、宮方である忽那氏等が、延元3年(北朝暦応元年、1338)7月13日、西條城を攻め落としたのである。そこで武家方は讃岐の細川頼有を大将として、伊豫の宮方を破らんと侵入してきた。そのため西條城は、また武家方のために取りかえされるのである。いったい西條城とはどこか。これについては久門範政氏が『西條市誌』でこの山城は常福寺の東方、煙焔蔵のすぐ西側で、現在前田和正氏宅裏山である。前は深田の「由流岐(ゆるぎ)」「土地がゆるぐ」で天然の防禦となり、後背は急峻な福武山で、人工的に削平したと思われる大体三段の平になっている。前方の見通しがよく、攻めるに難い中世の山城である。現在福武新田星加氏の所有地でみかん園になっている。ここに二ヶ所経塚があったことが判明した(別項「福武山麓の経塚群」参照)。南朝方と北朝方との攻防戦、伊豫の守護職をめぐる河野氏と阿讃の細川氏との長期にわたる対立抗争等のため、福武を中心として当地方は常に戦場の巷と化したのである。

(西條庄 8ヶ村)

承久の変(承久 3 年1221年)で河野通信は後鳥羽上皇側につき、北條氏討伐軍を起こしたが、戦に敗れ伊豫の守護職並びに所領をことごとく没収せられた。河野側について新居氏も同じく没収逼塞させられた。この没収せられた所領には新居西條庄があった。

その後80余年にしてこの西條庄8ヶ村が、鎌倉覚園寺領(得重・得恒・福武・稻満の4ヶ村)と京都遍照心院大通寺領(〇〇・末久・菊一・鶴久の4ヶ村)となるのである。

大通寺は寺領となった4ヶ村の収入をもって寺を維持し、源実朝夫人「北の方」は、亡夫の50回忌に福武金剛院に「七重石塔婆」を建立するのである。かく見てくると当地方も深く中央史につながっているのである。

(福武山麓の経塚群)

福武山麓には経塚が多い。おおよそ 6ヶ所あると思われる。

経塚は極楽浄土思想による極楽往生の作善として、また、末法思想による弥勒菩薩出世を期することより始ったといわれているが、その最初は平安時代藤原道長が寛弘4年(1007)、吉野の金峯山に法華經の写経を埋納したのに始まる。

当地方では中世から近世初頭(鎌倉～江戸初期)まで築造されているようであるが、福武山麓の経塚は何時頃のものであろうか。殆ど破壊されているので時代は定かではないが、私は室町期のものではないかと思っている。何れにしても福武山麓に生活文化を築いた当地先人の信仰生活の一端をうかがうことができる。

(近世の大町)

近世に入ると江戸幕府による封建制度が確立していった。一柳直重は就封するや、西條陣屋を築造し城下町を開基したが、その完成をみるまで大町に仮館を定めて居住していたものであろう。

城下町が開かれると、大町から下記 8 人の者が引っ越して行ったことが『西條誌』に記されている。

大師町 重蔵	当時の大年寄近江屋重蔵之先祖
中野町 平右衛門	当時の大年寄廣島屋多右衛門之先祖
本町 弥次右衛門	当時の跡断絶
紺屋町 庄助	当時紺屋町年寄大和屋次右衛門之先祖
同町 太郎右衛門	当時の跡断絶
横町 留右衛門	当時の近江屋猪右衛門之先祖
紺屋町 庄三郎	当時登り道に居住 備前屋又吉之先祖
魚屋町地蔵寺宝学院	当時の玉蔵院之先祖

これら引っ越して行った者たち及びその子孫たちは、それぞれ町の重要人物となり城下町の繁栄発展に貢献していったのである。

思えば、八堂山に弥生文化を遺した当地の先人たちは、やがて山麓福武に移りそこに古代から中世にかけて高い文化を遺したのである。近世になり大町が栄えたが、それより城下町へと発展して行った。

八堂山に発した文化の源流は北へ北へと移って行った。けだし今日も大町は着実に繁栄し、人口も最も多い校区となっているのである。



(「西條の歴史探訪」明比学著より転載)

スポーツ委員会委員長 加藤正法
 2R 親善スポーツ大会・ボーリング大会が namco パルティ・フジ玉津店ワンダーボールにて開催されました。
 西条ライオンズクラブからは越智美和 L、加藤弘道 L、高橋学 L、原まこと LL、日野克則 L、益田事務局の 6 名が選手として奮闘され、団体の結果は 6 位、入賞とはなかったのですが、個人賞では益田事務局が 60 位、日野克則 L が 20 位に入賞されました。
 終了後の泰山での懇親会では選手も応援の方も、当日の反省を兼ねて懇親を深めていました。
 来年は優勝目指して頑張りましょう。
 参加された皆様、お疲れ様でした。
 ありがとうございました。



編集後記



12 月に入り秋の気配があまり感じられないまま冬がきたような今日この頃です。
 そんなこの時期に穏やかな天気のことを指す言葉があります。答えは「小春日和」です。てっきり 3 月から 4 月くらいの時期の天候のことだと思っていました。
 この時期にしばしば春に似た温暖な晴天があることから「小春」と呼ばれるようになったそうです。
 外での仕事に携わる私にとっては毎日が小春日和であって欲しいものです。

MC・広報委員 山本周司

発行者 会長 瀬川寛清 (表紙題字「西条」筆)
 幹事 越智美和
 [MC・広報委員会]
 委員長/副委員長 寺川治美/盛實正人
 編集委員 越智英明・村上公明・山本周司・森下雄一
 例会日 毎月 第1・第3火曜日 (12:30~13:30)
 例会場 西条商工会館
 発行 西条ライオンズクラブ事務局
 印刷 プリントワールド ONO

西条ライオンズクラブ

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市779-8
 西条商工会館 1F
 TEL(0897)56-3980
 FAX(0897)56-9251
 E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp
 ホームページ http://saijo-lions.jp
 facebook http://facebook.com/saijo.lions/